

## 5-7 動物

### 5-7-1 現況調査

#### 1. 調査地域及び調査地点

調査地域は、対象事業実施区域及びその周辺 200m の範囲を基本とした。

調査地点及び調査ルートは、対象とする動物類を適切に確認できる位置を専門家の意見を踏まえて決定した。

#### 2. 調査期間等

調査期間は動物の生活史等を考慮し、生息状況を的確に把握できる表 5-7.1 に示す期間に実施した。また、調査時に他の分類群の重要な種等が確認された場合は随時記録した。

表 5-7.1 調査期間

調査項目	時期	調査期間	
哺乳類	秋季	令和2年10月18日～10月20日	
	冬季	令和3年1月18日～1月20日	
	春季	令和3年4月12日～4月14日	
	夏季	令和3年7月25日～7月27日	
鳥類	秋季	令和2年10月14日	
	冬季	令和3年1月21日	
	春季	令和3年4月12日	
	繁殖期	令和3年5月14日	
	夏季	令和3年7月25日	
	補足調査 <sup>注1</sup>		令和3年2月25日
			令和3年3月12日
			令和3年4月12日
			令和3年5月14日
			令和3年6月24日
		令和3年7月25日	
	令和3年8月26日		
両生類	早春季	令和3年3月11日	
	初夏	令和3年6月8日	
	夏季	令和3年7月26日	
爬虫類	秋季	令和2年9月14日～9月15日	
	春季	令和3年4月21日	
	夏季	令和3年7月26日	
昆虫類 ・クモ類	秋季	令和2年9月14日～9月15日	
	春季	令和3年4月21日～4月22日	
	夏季	令和3年7月12日～7月13日	
	補足調査 <sup>注2</sup>	令和3年6月8日	
陸産貝類	秋季	令和2年9月14日～9月15日	
	初夏	令和3年6月24日	
底生動物	早春季	令和3年3月11日	
	初夏	令和3年6月8日	

注) 1. 冬季調査において、猛禽類の確認があったため、対象事業実施区域を含む谷内部での繁殖の可能性を確認するために1日間/月程度の補足調査を実施した。

2. 昆虫類・クモ類の補足調査では、ホタル類等の生息状況確認のための夜間調査を実施した。

### 3. 調査結果

#### (1) 動物相の状況

現況調査において確認された動物の確認種数は、表 5-7.2 に示すとおりである。

表 5-7.2 動物の確認種数一覧

項目	確認種数			
哺乳類	6 目	6 科	8 種	
鳥類	11 目	28 科	57 種	
両生類	2 目	2 科	4 種	
爬虫類	2 目	7 科	9 種	
昆虫類・クモ類	16 目	180 科	544 種	
陸産貝類	2 グループ	8 科	14 種	
底生動物	6 綱	14 目	23 科	32 種

#### (2) 重要な種及び注目すべき生息地の分布、生息の状況及び生息環境の状況

##### 1) 重要な種の確認状況

現況調査で確認された重要な種は、表 5-7.3 に示す 14 種であった。

表 5-7.3 確認された重要な種

分類	確認種数	種名
鳥類	8 種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、フクロウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ
両生類	1 種	セトウチサンショウウオ
昆虫類・クモ類	2 種	コオイムシ、モンズズメバチ
陸産貝類	3 種	ヒメカサキビ、シメクチマイマイ、 <i>Satsuma</i> 属

注) *Satsuma* 属はアキラマイマイ若しくはシメクチマイマイのいずれかであり両種とも重要な種に該当することから重要な種 (1 種) として扱った。

##### 2) 注目すべき生息地の確認状況

注目すべき生息地として、重要な種であるセトウチサンショウウオの繁殖地を含む湿地・水路が該当する。

湿地は、対象事業実施区域西側の谷筋に分布する。耕作跡地に沢水や雨水等が溜まった環境であり、上流からの水の供給量は少なく、年間を通じて水深は浅い。

水路は、対象事業実施区域西側に位置する谷の入口に分布する。上記湿地の末端部であり、下流側は他の水域・水路には接続していない。

現地調査によって、セトウチサンショウウオ、ニホンアカガエル、ヒバカリ及びニホンマムシが当該生息地で確認された。

## 5-7-2 予測及び評価の結果

### 1. 動物への影響（工事の実施、施設の存在及び供用）

#### （1）予測

##### 1) 重要な動物

重要な動物に対する工事の実施及び施設の存在及び供用の影響の予測結果を表 5-7.4(1)～(2)に示す。予測の結果、重要な動物に対する事業の影響はない、または極めて小さいと予測された。

表 5-7.4 (1) 重要な動物の予測結果

種 名	予測結果	
	工事の実施	存在及び供用
ミサゴ	<p>&lt;建設機械の稼働&gt; 騒音・振動の予測結果より、対象事業実施区域から約 200m 地点での予測値は騒音寄与レベルで 70dB 程度、振動寄与レベルで 30dB 程度である。また、対象事業実施区域から営巣地までの距離は約 1km とさらに離れるため影響は極めて小さい。</p> <p>&lt;工事中車両等の走行&gt; 騒音・振動の予測結果より、車両走行ルート of 道路端における予測騒音レベル・予測振動レベルは環境保全目標を満足しており、そこから営巣地までの距離はさらに約 200m 離れることから影響は極めて小さい。</p> <p>&lt;土地の改変&gt; 対象事業実施区域内には本種の採餌環境は存在しない。また、樹林の改変も行わないため、繁殖活動に影響しない。</p>	<p>&lt;施設の存在&gt; 計画施設の煙突高さは現施設と同程度であるため、飛翔への影響は小さい。</p> <p>&lt;施設の稼働&gt; 騒音・振動の予測結果より、対象事業実施区域から約 200m 地点での予測値は騒音寄与レベルで 45dB 程度、振動寄与レベルで 20dB 程度である。また、営巣地までの距離は約 1km とさらに離れるため影響は極めて小さい。</p> <p>&lt;廃棄物運搬車両等の走行&gt; 騒音・振動の予測結果より、車両走行ルート of 道路端における予測騒音レベル・予測振動レベルは環境保全目標を満足しており、そこから営巣地までの距離はさらに約 200m 離れることから影響は極めて小さい。</p>
ハチクマ	<p>&lt;建設機械の稼働&gt; 騒音・振動の予測結果より、対象事業実施区域から約 200m 地点での予測値は騒音寄与レベルで 70dB 程度、振動寄与レベルで 30dB 程度である。また、対象事業実施区域から営巣地までの距離は約 1.3km とさらに離れるため影響は極めて小さい。</p> <p>&lt;工事中車両等の走行&gt; 騒音・振動の予測結果より、車両走行ルート of 道路端における予測騒音レベル・予測振動レベルは環境保全目標を満足しており、そこから営巣地までの距離はさらに約 1km 離れることから影響は極めて小さい。</p> <p>&lt;土地の改変&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。</p>	<p>&lt;施設の存在&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。</p> <p>&lt;施設の稼働&gt; 騒音・振動の予測結果より、対象事業実施区域から約 200m 地点での予測値は騒音寄与レベルで 45dB 程度、振動寄与レベルで 20dB 程度である。また、営巣地までの距離は約 1.3km とさらに離れるため影響は極めて小さい。</p> <p>&lt;廃棄物運搬車両等の走行&gt; 騒音・振動の予測結果より、車両走行ルート of 道路端における予測騒音レベル・予測振動レベルは環境保全目標を満足しており、そこから営巣地までの距離はさらに約 1km 離れることから影響は極めて小さい。</p>
ツミ	<p>&lt;土地の改変&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。</p>	<p>&lt;施設の存在&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。</p>

表 5-7.4 (2) 重要な動物の予測結果

種 名	予測結果	
	工事の実施	存在及び供用
ハイタカ	<p>&lt;土地の改変&gt; 対象事業実施区域に隣接する樹林で生息が確認されており、当該環境に生息する小鳥類を餌資源としている可能性がある。ただし、樹林の改変は行わないため、影響は極めて小さい。</p>	<p>&lt;施設の存在&gt; 計画施設の煙突高さは現施設と同程度であるため、飛翔への影響は小さい。</p>
フクロウ	<p>&lt;土地の改変&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。</p>	<p>&lt;施設の存在&gt; 計画施設の夜間照明による影響が懸念されるが、現施設が稼働中の現在においても周辺地域での生息が確認されたことから影響はない。</p>
ハヤブサ	<p>&lt;土地の改変&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。</p>	<p>&lt;施設の存在&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。</p>
サンショウクイ	<p>&lt;土地の改変&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。</p>	<p>&lt;施設の存在&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。</p>
サンコウチョウ	<p>&lt;土地の改変&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。</p>	<p>&lt;施設の存在&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。</p>
セトウチサンショウウオ	<p>&lt;土地の改変&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、濁水が生息地点に流入することはないため影響はない。</p>	<p>&lt;施設の存在&gt; 本事業によって、本種の生息環境条件の変化は生じないため、影響はない。</p>
コオイムシ	<p>&lt;土地の改変&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、濁水が生息地点に流入することはないため影響はない。</p>	<p>&lt;施設の存在&gt; 計画施設の夜間照明による影響が懸念されるが、夜間照明により本種の確認地の生息環境条件に変化は生じないため、影響はない。</p>
モンスズメバチ	<p>&lt;土地の改変&gt; 本種は、対象事業実施区域周辺の樹林が主要な生息地と考えられる。本事業において、樹林の改変は行わないため、影響は極めて小さい。</p>	<p>&lt;施設の存在&gt; 計画施設の夜間照明による影響が懸念されるが、現施設が稼働中の現在においても周辺地域での生息が確認されたことから影響はない。</p>
ヒメカサキビ	<p>&lt;土地の改変&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。</p>	<p>&lt;施設の存在&gt; 本事業によって、本種の生息環境条件の変化は生じないため、影響はない。</p>
シメクチマイマイ	<p>&lt;土地の改変&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。</p>	<p>&lt;施設の存在&gt; 本事業によって、本種の生息環境条件の変化は生じないため、影響はない。</p>
Satsuma 属	<p>&lt;土地の改変&gt; 本種は、対象事業実施区域周辺の樹林が主要な生息地と考えられる。本事業において、樹林の改変は行わないため、影響は極めて小さい。</p>	<p>&lt;施設の存在&gt; 土地の改変以降新たな影響は生じないため、影響はない。</p>

## 2) 注目すべき生息地

本事業による、注目すべき生息地であるセトウチサンショウウオの繁殖地を含む湿地・水路への影響はないと予測された。

## (2) 環境保全措置

施設の存在及び供用に伴う動物への影響を回避または低減するため、以下に示す環境保全措置を講じることとしている。

- ・敷地内への緑化：敷地内を積極的に緑化し、周辺環境との調和を図る。
- ・敷地内の照明等：動植物へ配慮した外灯設備を設置する（生物の誘引防止等に留意したタイプを設置する）

影響の予測結果を踏まえ、工事の実施、施設の存在及び供用による影響をさらに低減するため、環境保全措置の検討を行った。検討の結果、実行可能な環境保全措置を以下に示す。

- ・新規に設置する施設照明への配慮：計画施設の屋外に設置する照明について、周辺樹林への光の漏洩を極力抑えるよう、使用する照明機材の設置位置に配慮する。また、夜間の屋外照明の点灯を極力控える。
- ・地域の植生に配慮した植栽種の選定及び適切な維持管理の実施：事業計画上実施することとしている敷地境界の緑化には、地域の植生に配慮した植栽種を選定し、植栽後は適切な維持管理を実施する。植栽種は、必要に応じて、植生の専門家による指導のもと決定する。

## (3) 評価

### 1) 環境影響の回避・低減に係る評価

調査及び予測の結果、施設の存在及び供用が重要な動物の生息環境へ与える影響はない、または極めて小さいものと予測された。なお、前項に示す環境保全措置を実施することで事業による動物への影響はさらに低減されるものと考えられる。

以上のことから、工事の実施、施設の存在及び供用が動物へ及ぼす影響については、実行可能な範囲内で回避または低減が図られているものと評価する。